広報 あいかわ

発行所
秋田県北秋田郡
合川町役場
編集責任者
広報係　杉渕佐一郎
（合川町役場総務課
TEL合川4番）
（1回発行部数2,450）
定価　1部　5円

営林署の誘置遂に実現!!

＝役場は臨時にまた李岱へ移転＝

合協定事項中の最難関事と目されていた、営林署誘置は遂に実現が内定、町では具体的な受入態勢を進めている。

昭和三十年町村合併以来、営林署の誘置については本格的に陳情を続けていたにもかかわらず、二ッ井、能代の木材産業との関連や隣町二ッ井町との関係などでその実現が危ぶまれていたが、本年度に入つてから畠山町長が積極的に関係機関に仂きかけてその熱意を示すとともに全林野労仂組合に対しても協力を懇請のところついに先月末にいたり植杉秋田営林局長を通じて『林野行政の都合により七座営林署を合川町に移転する』との内示を得たので町では議会と協議し、受入態勢に入つたわけである。現在までの協議では、十二月中旬に七座営林署という名称のまま当町役場庁舎を臨時庁舎として移転することになつている。これにともない町役場は十二月十日から旧臨時役場（旧落合村役場＝李岱）に移転することになつた。

移転する営林署の職員数は署長以下六十五名ほどであるがこれら署員の住宅（官舎）は現在町で建築中の住宅に入居することになつている。

七座営林署から〝合川営林署〟と正式に名称が変るのは明年一月上旬に官報告示があつてからとなるわけだが、それまでは旧来の名称が用いられるものとみれるまたあたらしい営林署庁舎は昭和三十五年度に国の予算で新築することになつているが、場合によつては明三十四年度中に町で建築して官に提供することになるかも知れないという話もある。新営林署の位置に関してはまだ具体的な話しは進められていないが、町と町議会では旧来からの経緯を尊重して李岱字上悪土（町道中央線の沿線）を希望することになつている。

広報「あいかわ」五十号に寄す

町長　畠山義郎

広報『あいかわ』が発刊以来五十号と回を重ねることは今更ながら日月の経過というものが著しく感じられる。

旧村当時、広報紙のあつたところと無かつたところがあるので合併して合川町となり〝広報〟が出ることを奇異に思つた人があるかも知れないが、県や市町村の広報活動は活発でひとり合川町のみのものではない。むしろそのなかで、如何に正確に町民への報告を行うか、また率直な町民の考えが広報を通じて如何に町政に反映するかが問題なわけである。

私は、編集技術の点や、取材ケースの点において必らずしも広報『あいかわ』が満点だとは思わない。町職員の定数の関係から専属の職員を配置できないで兼務職員が広報編集を担当していることが取材範囲を限定しないかということや、また広報が新聞のように予測で報ずることをさけなければならない公器であるための制約もあると思う。しかし広報が無いよりは有ることが、虚報であるか正確なものであるかを判断する唯一の機関であることを考えるとき、その持つ意義の大きさとその取材担当者の責任が重大であることを痛感させられる。

私が町民各位に希望したいのは、より建設的な町民の声を、あるいはより共感的な町民の作品をどしどし広報紙上に発表してもらいたいことである。

広報は、町の唯一の報道機関としての公器であることを認識し、町民、町、教育委員会、編集担当者等がそれぞれ一体となつて育てていくことこそ広報『あいかわ』発展の唯一の道であり真に民主主義社会の町自治体の道標たり得るものであると信じて疑わない。

来年もお正月は新暦で!!

◇古い慣例を改めるには勇気が必要です。一人一人が先駆者のつもりで、来年も旧正を廃止しお正月は新暦で行いましよう。

合川町
合川公民館
合川町新生活運動推進協議会

―みなさんありがとう―

共同募金の成果まとまる

去る十月一日から一カ月間にわたつて行われた「赤い羽根共同募金」の成果がこのほどまとまつた。ことしは天候の関係その他で農作業がおくれ、そのため未完遂の地区もあるが全体的には一〇九・一九％という好成績である。なお未完遂の地区に対しては引続き運動を実施中なので、その地区の各位はこの募金運動に理解をもたれて協力して下さいと係では望んでいる。十一月末日現在の募金状況は次のとおり。

◇東地区	
目標額	五四、九二〇円
募円額	五四、七四〇円
募金率	九九・六七％
◇西地区	
目標額	三八、六五〇円
募金額	二九、八二〇円
募金率	七七・一五％
◇南地区	
目標額	四三、八一〇円
募金額	四一、八五〇円
募金率	九五・五二％
◇北地区	
目標額	二八、六四〇円
募金額	二九、〇二六円
募金率	一〇一・三四％
◇その他	
匿名募金	七、〇〇〇円
無人募金箱	一、〇六〇円
映写会収入	一七、七七〇円
計	二五、八三〇円
総計	一八一、二六六円
募金率	一〇九、一九％

役場各課（機関）の移転位置きまる

別項のとおり七座営林署が本町に移転することになり当分の間本町役場庁舎を同営林署の庁舎として提供することになつたので、これにともない町では旧役場に全部移転するがその部屋割りを次のとおり決定、十日および十一日の両日引越しを実施することになつた。

◇階下
町長、助役、収入役、総務課、民生課
会計係

◇二階
経済課、税務課、農業委員会、保険課

なお、教育委員会事務局は李岱の庄司物産（庄司博氏）事務所を借用、また森林組合は駅前の佐藤ヤスさん宅（旧合川食堂）をそれぞれ仮事務所として執務することになつた。

庁内交換台は廃止

役場庁舎の移転にともない去る七月初旬から設置されていた〝庁内電話交換台〟は廃止されることになつたこれは設備移転などのため多額の費用を要するところから不便だということはわかりつつも止むなくとられた措置であるが、いままで庁内交換台から接続されていた約十五個の内線電話機は全部姿を消すわけで、四番（階下）二十四番（二階）の直通電話三本だけとなつた。

また森林組合は従来通り一七七番を使用し教育委員会の電話番号は六二番を使用することになつている。

簡易局は今迄通り

十月一日から役場内に設置されていた「合川駅前簡易郵便局」は業務開始以来すでに二カ月余、県内でも取扱業務量において上位を占めているが、これは役場が臨時に李岱に移転することとは関係なく従来どおりの場所で業務をつづけることになつている。

なお電話は下大野郵便局と連絡などのため必要の場合は営林署の電話を借用する予定となつている。

工藤さんら四氏

＝人権擁護委員に＝

町では、このほど人権擁護委員として次の四氏を任命されるよう法務大臣に推せんした。いままでは本町の人権擁護委員は工藤為治氏（上杉）一人であつたが、同氏の任期満了と委員定数の改正によつて増員となつたもので今後の各委員の活躍が期待されている。

なお人権擁護委員の主な仕事は、国民の基本的人権が侵されないように監視し、侵犯されているものはこれを救済するためにあらゆる努力をはらい、また常に人権思想の普及高揚につとめる任務をもつている。本町の委員は次のとおり。

工藤為治（上杉）
松岡忠（羽根山）
土濃塚イマ（芹沢）
畠山佐一郎（木戸石）

二等陸海空士

自衛官募集中です

防衛庁では唯今本年度最後の二等陸海空士自衛官を次の要領で募集しています。

一、応募資格
十八才〜二十五才（昭和九年三月二日から同十六年三月一日までの間に生れたもの）で中学校卒業程度の学力ある男子。

二、受付期間
昭和三十四年一月十四日（水曜日）まで。

三、その他
くわしいことは総務課までお問合せ下さい。

雪は中旬に多い？

―12月の天気予報―

秋田地方気象台では、十二月中の月間天気予報をこのほど発表した。それによると、中旬すぎまでは大陸の高気圧が強まつて本邦にはり出してくるので、曇りや降雪気味の日が多く、とくに上旬末から中旬は冬型が顕著になり季節風が強まつて山ぞい地方や山岳部では積雪が多い。したがつて気温もこのころ下り、寒さもきびしくなるが下旬にはいくぶんやわらいでくるという。

▽気温
上旬前半は平年並かいくらか高い日が多いが、後半は寒気が入りやすくなるので低くなる。中旬前半は一時強い低温の出る日もある。下旬ははじめ平年並かやや低めだが、後半は平年並かやや高めの見込み。

▽降水量
積雪、上旬は総体的には少なめだが、旬なかばごろになつて天気はくずれやすくなり中旬には風雪気味の日が多くなる見込みで、降水量も多めとなる。下旬の降水量は少なめの見込み。

慶弔だより

自一〇、一
至一一、三〇

出生（二四）

永井一直、寅吉長男、上杉
木村津紀子、吉蔵長女李岱
工藤靖、一郎長男、上杉
松岡忠、柳二郎孫、羽根山
中島万平、弘治長男、弥栄
村属景子、亨四女　木戸石
新田透、吉治孫、新田目
米倉武俊、袈裟松長男上杉
佐藤久夫、徳松孫、川井
松橋一幸、仁市孫、三里
土濃塚淳子、和悦二女芹沢
金田正行、文吉孫、西根田
金田幸子、多兵衛孫、同
三浦幸生、福蔵孫、三木田
山岡耕悦、菊蔵孫、雪田
福岡千春、輝明長女、三里
伊藤恭子、専二女、杉山田
山岡悦子、豊吉孫、雪田
金田史、文蔵孫、西根田
御所野みどり助治長女鎌沢
奈良久美子、ナヲ孫、増沢
工藤博明、三蔵孫、上杉
吉田孝瑞、作松孫、川井
斎藤恭子、清之助孫、合川

死亡（二〇）

桜井仁一郎、本人、下杉
後藤安二郎、安太郎二男同
成田富美子、米蔵孫、李岱
米倉武五郎、本人、上杉
森岡昭二、政治三男、道城
金田金作幸一郎長男西根田
三浦ナヨ、幹夫祖母三木田
福岡佐市、本人、三里
福田貞子、文之助長女鎌沢
土濃塚健太郎、本人、芹沢
佐藤久夫、徳松孫、川井
村形与市、本人、同
工藤佐之松、本人、上杉
吉田茂七、本人、川井
工藤スワ、留造祖母、上杉
米倉蔵松、甚一郎祖父、同
松岡忠、柳二郎孫、羽根山
成田テツ、直治養母、李岱
松岡キン、八郎母、羽根山
伊藤石松、本人、木戸石

合川町の 五大ニュース募集!!

＝みなさんの投票で決めます＝

一九五八年もあとわずかで終ろうとしていますが、この一年をふり返つてみますと、わが合川町にとつては順調で平和なそして躍進の年であつたといえるかと思います。町村合併四年目の年として行政面も円滑に行われるようになり、十分とまでは満足が得られなかつたにしてもまずまずの業績を残したものと考えられます。中でも四年がかりで事業を進めてきた町道中央線の全線開通や営林署の誘置実現、酪農事業の振興などには見るべきものがあります。こういつた一年間のわが町の歩みの中で、最も大きな町のニュースを五つ、広く町民のみなさんから募り、新生合川町の歴史に残るものを決めたいと思います。昨年は非常な関心を呼び約六百五十点もの投票がありましたが、ことしはさらに多数応募下さるようお願いいたします。

……応募規定……

①今年一年間（一月〜十二月）に合川町で起きたあらゆる分野のニュースの中から最大と思われるものを五つ選び一から五まで順に書いて下さい。

②用紙＝郵便ハガキまたはこれに準ずるものを用い、住所、氏名、年令、性別、職業も明記して下さい。

③宛先＝合川町役場内総務課広報係へ

④締切＝十二月二十日（新年号印刷の準備上厳守すること）

⑤決定方法＝投票数の最も多いものから順位をつけ、1位から5位までをもつて町の五大ニュースとします。

⑥表彰＝合致者（順位も）に対し五名の方に記念品を贈呈いたします（但し合致者のない場合はもつとも近似のものとし、また合致者五名以上の場合は抽せんできめます）

⑦発表＝〝広報あいかわ〟新年号（一月十日発行）紙上で行います。

広報に望むこと

アンケート

産業記事に重点を

広報『あいかわ』が役場と町民をつなぐ広報紙として発刊してから本号でちょうど五十号を数えることになりました。係では、これを記念してさらに広報をみなさんのものに育てていくため十人の方々に「広報に望む」と題してアンケートをお願いしていましたが、原稿締切りまでに次の方々から回答が寄せられましたので紹介いたします。寄せられました御希望御意見を尊重し、今後いつそう御期待に添うよう努力したいと思いますので、各位の御支援をお願い申上げます。（広報係）

①いままでの編集で良かつた点改めたい点
②こんなことをとりあげたらというご意見やご希望
③その他広報紙全般についてのご希望

（敬称略、順序不同）

李岱　福岡　栄

①福祉施設の紹介はよかつた。お役所仕事に捉われた形式一点ばりの紹介でなしに写真に盛る断面を視覚に訴えた方法などは、活字の羅列から解放されて明るくなりつつある町の将来を確実に見つめることができるようでたのもしい。

②文化面のことも、もう少しとりあげてほしい。町内の文化団体などの動向が詳細でなくとも大体わかるように……。

③評論感から親近感へ……広報は、自分たちのものであるというよろこび、待ち切れないのが広報、というように努力をのぞみたい。系統づけられた永続……至難を越えての努力に敬意を表しつつやがては百号、二百号への期待を大きくしている。

東京都文京区青柳町30　柳谷　康夫（木戸石出身）

①編集はもつと立体的に。単に既成事実の報告に終ることなく、記事を読んだら何か一言でもその内容に対して意見らしいものをもつように工夫してほしい。人の動き（慶弔だより）は良い。これは町をはなれている我々にとつては何よりの贈物となつている。

②町外居住者の近況を特集したら面白いと思うが、如何、たとえばどこそこの誰は今どこで何をして、自分の町をどう見ているか……といつたことなど。これは蔭の力として発展途中にある町のいろいろの面にプラスになると思う。

③町内事情の報道のみでなく、新しい時代の流れを吹き入れるニュース性をとりあげること。また、発行日の一定不変ということも希望の一つである。

芹沢　土濃塚イマ

①良かつた点。
イ、町政のほどよい取りあげ方。
ロ、特集号（酪農特集のごとき）の発行。
ハ、第四十八号の子供の作品室などもほほえましい。
改めたい点。
特別にありません。

②公民館や町内の各種団体の活動欄を小さくとも設けたら如何でしょう。

③常に責任ある編集を。町民の関心の高い広報紙故町民の声を大きく反映させて頂きたい。

上杉　亀谷　健樹

①「見出し」が平易であり記事もできるだけ漢字をさけているが「割付け」になにかスッキリしない感がある。また写真は、たいてい不鮮明で暗く、その大小とか撮り方などに今少し考慮を払われたらよいと思う。

②町政の広報という特殊な性格から取りあげる記事も一応限定されるのは確かだが、もつと読んで楽しい随筆とか、各部落の故事、農事についての簡明な解説、品種に対する啓蒙記事などをのせたら喜ばれると思う

③数字の羅列、ヨソユキの言葉ばかりの広報だと無用の長物となるばかりであるから、スミからスミまでむさぼり読ませる工夫（とくに記事の平明さ）を望みたい。

鎌沢　御所野長三郎

①良かつた点。
一、印刷が鮮明。
二、全町の記事がのつている。
三、町民の声は良かつた。
改めたい点。
一、発行がおくれぬように。
二、人名は正確を期して。
三、写真はハッキリしたものの使用を。

②今月（来月）の行事を地区ごと各種団体ごとにのせてほしい。
学校教育とも関係あることがらをのせるように校長会などに要望してほしい。
青年会や婦人会の活動促進のための記事。

③農産品評会等の記事はもつと農家の増産の資料になるようなこと、たとえば審査講評などをのせてほしかつた。
八万円近い予算でたつた三五〇点の出品物（一点当り三六〇円）ではもつと広報宣伝などに回し、農協販としての特集などもほしかつた。

木戸石　畠山　謙治

①明るい社会福祉事業の記事は良かつた。
議会の審議状況をくわしくのせてほしい。

②明るい家庭や計画性（経済的にも家庭的にも）のある家庭を紹介しては如何。（とくに農家の場合の収支状況を重点的に……）

③広報は町民全般に良く読まれていると思うので、とくに農業技術、林業技術の面について時季的なものをとりあげて紙上指導を強化されるように望みたい。

上杉　工藤　イマ

①編集は満点。
しかし町民からの投書などが少ない。匿名ではとらないという点に欠かんがあるのではないか。匿名でもいいからどんどんとりあげたなら真の町民の声が面白いほどよく聞けると思うから関係当局の一考を望む。

②公明選挙の啓蒙記事を大いにとりあげられたい。

③貯蓄奨励の記事をとりあげること。
公民館活動の記事を多くのせること。
町議会の模様を詳細に報導されたい。

土濃塚さん四氏入賞

＝郡市私有林造林品評会で＝

第二回大館市北秋田郡私有林造林品評会は、北秋田郡森林組合連絡会および森林組合技術員連盟郡支部の主催により、さきごろ行われたが、審査の結果、当町からの入賞者は次のとおり決定

去る十一月二十一日北秋田林業事務所における表彰式で賞状と賞品がおくられた。

なお、この品評会は審査対象を杉とし、それを林令により第一部（六年以上十五年以下）第二部（十六年以上二十五年以下）とにわけて行われたが、今回の出品点数は五十五点であつた。

本町関係の受賞者は次のとおり。

▽**第一部**
◎**二等賞**
土濃塚正夫（芹沢）杉六年生、二反歩
◎**努力賞**
高橋エイ子（八幡岱）杉十四年生、一反歩
伊藤七蔵（杉山田）杉六年生、一反歩
▽**第二部**
◎**努力賞**
佐藤喜代治（木戸石）杉二十三年、三反歩

盛大に開院式

＝町立病院で＝

町立合川病院（院長、小杉寛信氏）ではかねてから病院開院式を計画していたが去る七日その開院式を盛大に挙行した。当日は弘前大学医学部をはじめ、町内外の来賓多数が招かれ病院施設の参観や、祝宴が催され盛況のうちに午後三時すぎ終了した。なお同日、この病院開設の功労者として松岡善吉氏（旧落合村長）には畠山町長から表彰状と記念品が贈られた。

町立病院は町村合併以前に旧落合、下大野、下小阿仁の三村にそれぞれ設置されていた診療所がその前身であり、昭和三十年四月合川町立診療所となり着々と施設の整備につとめるとともに弘前大学医学部当局の絶大なる協力によつて医師の陣容も強固にし、さらに往診用自動車、病棟の増築などにも意を用い、昨三十二年十一月には小児科を設置三科制の町立病院として発足したもので、さらに本年に入つてからは病棟一棟五十二坪、給食棟一棟十六坪医師住宅の新築、給食開始など名実ともに病院としての形態が整い、今後の発展が期待されている。

【写真＝合川病院】

各地区で盛況

＝移動農業相談所＝

町経済課では去る三日と五日の両日町内各地区（三木田、李岱、木戸石、上杉）で移動農業相談所を開いたこれには、町経済課係員をはじめ郡内にある各農業関係指導機関（農業、土地改良普及）の所長以下係員も出席、各相談所とも四〇〜五〇名の農民がつめかけて熱心に話をきき大きな成果をあげた。

尺貫法よサヨウナラ

早く慣れよう　メートル法に

明三十四年の一月一日から全国一斉にすべての売り買いはメートル法を用いるようになります。

計量器（ハカリ）の用意は、まずメートル目盛りのあるものを準備することが必要ですが、メートルと尺、グラムと匁など両方の目盛りのあるものなら来年からでも使うことができます。

年が明ければ、酒、砂糖、魚、布地、肥料なども全部メートル法単位でなければ買うことができません。

小学校や中学校の子供たちはみんなメートル法で学んでいます。世界共通の単位それはメートル法です。お互いのために、明日からといわず、今日からメートル法に切り替え早く慣れておきましょう。

12～3月の産業経済関係行事予定

（12月）
◉水田裏作の管理指導
◉種子更新指導
◉農事座談会
◉わら工品製作指導
◉農政講演会

（1月）
◉農事座談会
◉農業団体協議会
◉わら工品製作競技会
◉乳牛の冬期管理指導
◉乳牛飼育者座談会

（2月）
◉農事座談会
◉農業実習生及び農村青年研修者座談会
◉養豚座談会
◉農業振興講演会
◉養鶏管理実地指導

（3月）
◉苗代施肥設計指導
◉温床育苗指導
◉グループ運営指導
◉簿記記帳指導
◉三早栽培実施指導
◉酪農講演会

楽しいフラフープ

―けがをせぬように注意―

みなさん、この写真をごらん下さい。これは私のともだちが、今流行のフラフープを回しているところです。

フラフープというのは、硬質ポリエチレン製の輪をからだで回転させて遊ぶもので、美容上婦人の方には絶対に向くとか何とか評されています。

婦人の美容には好適という半面に、いろいろな欠点もあるというので、あちこちで教育委員会などが小中学校に注意を与えたり、学校によつてはフラフープを校内に持つて来てはいけないと禁止するところもあるようです。

フラフープを買えない子供も多いから学校へ持つてくるな、という見方をしている人もあるようですが、さいきんある教育委員会では管下の小、中、高校に次のような注意を与えたそうですが、危険防止の上からも参考になると思いますので御紹介しましょう。

◇道路でやつてはいけない
◇長時間を連続してはいけない
◇空腹、満腹のときはいけない
◇体の弱いこどもはいけない
◇一方に回すだけでなく、回す向きをときどき変える
◇フラフープでの競技はいけない

等々です。

その他全国各地で、自動車にひかれて死んだ子供もあり、胃に穴があいて入院したり、継ぎ目がはずれて傍にいた子供の目にささつたりという例がたくさんあります。

〝県民手帳〟

希望者は申込みを

県の文書総計課では昭和34年版の〝秋田県民手帳〟をつくり実費で県民のみなさんにおわけすることになり現品はすでに役場に届いていますので．希望の方は一部あたり80円をそえて役場総務課統計係へお申込み下さい。手帳の内容は．合併後の県内市町村の位置図をはじめ市町村別の農業関係各種統計資料などおよそ30表や．県市町村人名録・鉄道運賃表．郵便．為替．度量衡換算表等の日常参考になる事項がのせられて．表紙は黒褐色に金文字という上品なスタイルになつております。〔統計係〕

営林署移転は十二日から

一面所報のとおり七座営林署は当町へ移転することになつたが　同署では移転する日を十二日から十四日まで、また職員家族の住民移転は十五日から二十日までの間と計画の上それぞれ準備を進めている。

おしらせ

広報新年号は明年一月十日ごろの発行になります。なお同時に〝県政特報〟として県の印刷による広報が折込みで配達になりますから御期待下さい。

あとがき

営林署の誘置ついに陽の目を見る。ことしのわが町のビッグニュースとなるだろう。このため、役場はまたあのオンボロ庁舎へ逆もどり……。何かにつけ不便だが町発展のための当分の間のガマン致し方あるまい。

◇

早いもので本紙ももう五〇号を迎えることになつた。発刊当時からの四年間をかえりみて全く感無量といつた感じである。ここまで成長できたのも町民各位の絶大なる御支援のたまものと厚くお礼申し上げ、今後の御協力をお願いしたい。

◇

五〇号を記念して、あれもこれも……といろいろの計画を胸に描いたものの編集子の力及ばず、御覧のとおりのものとなつてしまつた。五〇号記念などとは言えないがよろしく御批判のほどをお願いしたいものと思う（＝S＝）